



### 首里城

紺碧の洋上に古式ゆかし琉球の  
嶋。海耕の心魂沁しみる 萬國  
津梁は 民のこころ意気  
壮大な血潮の心根刻む 王朝  
歴史文化の象徴 悠然と屹立  
した首里城 愛は甦る 不撓  
不屈の精神は 未来永劫 華  
やかにして優雅な首里城は  
百五十万県民の心の據り所  
再建復興の鼓動 天空海闊  
の熱意 世界へ鳴り響く

(自詠)

「首里城」創作の意図

- ・首里城を仰ぎ見る県民の心象。御興(みこし)をかたぐ棟と城壁を連想した。言葉は自我の心境を書き綴った。
- ・「首里城」の文字はゆったりとした風韻としなやかでねばり強く、どのような大きな負担にも耐えうる表象を試みた。
- ・書体は欧法、鄭道昭、張猛龍等を加味した。

Watashi no sanpomichi  
私のさんぼ道  
第173回

## 真珠道ポタリング

— 沖宮から繁多川を経て首里城へ —

首里城から国場川河口に至る「真珠道(まだまみち)」は、およそ500年前に造られた当時の主要街道だ。首里城とその周辺の拝所を描いた「御朱印」が沖宮で手に入ると聞き、電動アシスト自転車に乗って沖宮から首里城まで漕ぎ上がるマッチョ系の「さんぼ道」にチャレンジした！



茅原 南龍

1939年、石垣市新川生まれ。師は廣津雲仙。茅原書藝會主宰。2003年、第35回日展特選。2009年、石垣市榮譽市民。2015年、沖縄県功勞賞。18年、春の叙勲 旭日双光章。

# 真珠道ポタリング ルートMAP



「繁多川地域案内図作成事業」に携わった柴田一郎さん

## 500年前の主要街道

真珠道まだまみちとは尚真王時代の1522年、守礼門の東側を起点に金城町石畳道、繁多川、識名、真玉橋を経て現在の豊見城城址公園の中を通り、

小禄経由で垣花まで整備された石畳道だ。尚清王が1546年に屋良座森城やらざむいぐしくを現在の那覇軍港内に築城すると、垣花からさらに延伸され、王府と港を結ぶ街道が完成した。守礼門の東南脇に建つ「真珠湊碑文まだまみちとひもん」は、真珠道と真玉橋を築造した際の記念碑である(本来の碑は沖繩戦で破壊されたため2006年に復元)。首里城公園の解説によると、その碑面には「真珠道および真玉橋は一般交通の利便に供するほか、国土の防衛のため王命により建設された。一旦」とある。時には、首里の軍勢と南風原、島添大里、知念、佐敷の軍勢は、真玉橋を渡って下島尻の軍勢と合流し、那覇港口の南岸垣花に勢揃いして外敵の侵入に備えた」と

記されているそうで、軍用道路としても重要な役割を担っていたことが分かる。500年の時を経て、真珠道は沖繩戦や戦後の道路整備によりほとんどが破壊されてしまい、石畳の残る箇所も金城町の300メートル程度のみとなった。繁多川自治会ではこの旧道と周辺史跡をいねいに踏査してウォーキングマップを作成し、公民館の健康講座に活用している。

## e-bikeで御朱印めぐり

そういえば、画家の新城征孝さんが首里城やその周辺の拝所を描いた絵に教訓歌が添えられた「御朱印」が大人気だと聞いた。全部で10種類あり、首里城の売店と沖宮で買えるらしい。ならば沖宮から真珠道を北上して首里城に至る「私のさんぽ道」が組めるのではないか??

問題があるとすればその高度差だ。距離的には9キロ程度だが、ほぼ海拔0メートルの地域から標高107メートルの首里城まで登城するのは、運動不足の身には辛すぎる...そこで天啓が降りてきた。「e-bike-okinawa」の伊波さんに相談してみようかな??

電動アシスト自転車を沖繩全域に普及させている伊波さんと弊誌は、那覇大綱挽ゆかりの地を巡った2020年10月号の「那覇まちポタリング」を皮切りに、今年の9月号でも名護市全域を巡る特

集でコラボしている。電動アシスト自転車の驚異的なアシスト力をもってすれば、激しいアップダウンやでこぼこ道が容赦なく続く真珠道だってお手のものだろう。伊波さん、この企画をどう思いますか?

「...めちゃくちゃ楽しそうじゃないですか!!ぜひお願いします!」

さすが伊波さん! お店の定休日を取材日に充ててもらい、表紙撮影中の沖宮までお越しいただいた。表紙モデルを務め終えた美音さんも真珠道ポタリングに誘ってみたが、心なしか不安顔だ。「自転車にはあまり乗らないし、体力にも自信がある方ではないので...首里城まで漕げるでしょうか?」

電動アシスト自転車に乗るのも初めてとのこと、伊波さんが奥武山公園内で乗り方をレクチャーした。ペダルを二踏みするなり「うわ〜!と驚く美音さん。『すごい楽ですね』と顔を輝かせ、楽しそうにぐるぐると周囲を走り回っている。

今回は時間の関係で豊見城方面を割愛し、とよみ大橋経由で真玉橋から真珠道にアタックすることにした。スタッフカーに同乗いただいたのは、2012年に上梓された『繁多川100周年記念誌』の編集委員を務めた柴田一郎さん。繁多川には50年近くお住まいだそう、真珠道マップの作成にあたって主力となった方だ。首里城にちなむ8枚の御朱印を沖宮で買い求め、いざ出発!

## 首里城内とその周辺の御朱印



※写真は2010年12月のもの



首里社御嶽



円覚寺



弁財天堂



龍樋



京の内



園比屋武御嶽



- 1:この細道がかつての真珠道…
- 2:ハンタガー
- 3:ウフカー
- 4:神村酒造跡
- 5:ボージガー
- 6:一気に下るシチナンダピラ
- 7:真珠道で使われていた石

**湧水の里、繁多川**

識名十字路を直進し、なだらかなアップダウンを繰り返す「シードウピラ(勢頭坂)」へ。このまま県道を進むのかと思つたところで、柴田さんが右の細道へ誘導した。

「こちらが元々の真珠道ですよ」

車もすれ違えなさそうな細道を進んで繁多川大通りに突き当たると、左の角に湧水(カー)が見えた。

「ここがムラガー(生活用水)だった『ウフカー(大川)』です。飲み水、洗濯、馬の汗流し…この水を利用し

た水田も広がっていたそうです」

柴田さんによると「昭和62(1987)年の調査では120トンあまりの水が湧いていた」とのこと。このウフカーと北のハンタガー(繁多川)を結ぶ全長250メートルの区間が「メーミチ(前道)」と呼ばれた昔のメインストリートだという。

メーミチをさらに進むと「ボージガー(坊主川)」が現れた。名泉の誉れ高きカーで、一帯に集中していた豆腐屋はこぞつてここに水を汲みにきたらしい。その先には赤瓦がトッピングされた立派な石塀が出現。明治15(1882)年創業の神村酒造の跡だという。酒造りにも名水が欠かせないことを思えば納得だ。

メーミチ北端のハンタガーを過ぎると、恐ろしいほどの勾配の下り坂となる。ここが遺念火(イニピー)の怪談で名高いシチナンダピラ(識名坂)。その頂上部には、造成で発掘された真珠道の石が並べてあった。



**いよいよ真珠道に突入!**

本来の真珠道は小祿から南東に下りて豊見城城址公園の中を通るが、今回は那覇東バイパスを使って真玉橋までショートカットすることにした。漫湖のマングループ群落を見下ろしながら那覇東道路を直進し、真玉橋に向かって左折する。ここからが真珠道体験の始まりだ。

尚真王が築いた真玉橋は戦後に鉄橋として架け替えられたが、近年行われた架橋工事の際に石橋の遺構が発掘され、遺構の一部が橋のたもとに移設保存されている。車から下りてきた柴田さんが解説してくれた。

「真珠道という名称は後世になって付けられたもので、記録には『真珠湊

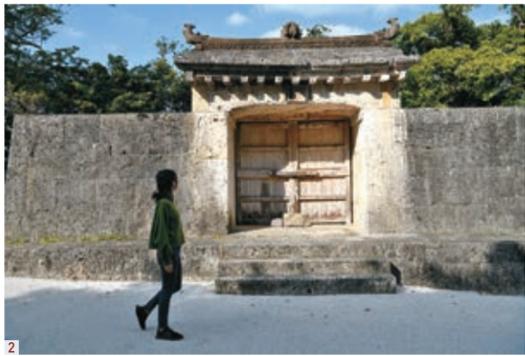
(まだまみなと)』とあります。守礼門のそばにある真珠湊碑文(まだまみなとひもん)にも、真珠湊に橋を架けたと書かれてある。真珠というのは最上級の誉め言葉で、素晴らしい港という意味。そこに道を造り、港に続く橋を架けた。最上級の港、最上級の橋、そこを通る最上級の道。そういう言葉だと思います」

真玉橋を過ぎて古波蔵大通りを東走し、理容室の角を左折すると旧道らしい雰囲気になってきた。それにしても「胸突き坂」の形容がぴったりな勾配!これがただのママチャリだったらと考えると寒気がする。左手に現れた大きな碑は「尚徳王御陵蹟」。若くして薨去した第1尚氏最後の王が密かに葬られた墓らしい。



- 1:真玉橋の遺構をのぞき込む2人
- 2:真珠道はここから北東に進路を変える
- 3:いよいよ胸突き坂に差しかかる!
- 4:「尚徳王御陵蹟」と書かれた碑
- 5:識名十字路を直進…





1: 守礼門前に到着！  
2: 園比屋武御嶽石門  
3: 円覚寺・総門  
4: 弁財天堂  
5: 龍樋  
6: 首里杜御嶽

### 御朱印めぐりスタート

守礼門脇に立つ真珠湊碑文を確かめて、改めて真珠道を踏破した感慨に浸った。実際は豊見城方面を割愛している、次回は繁多川公民館の健康講座「真珠道を歩こう」に参加してその全容を体験したい。

さて、いよいよ8枚の御朱印に描かれた拝所めぐりのスタートだ。まずは周辺文化財から回り、次に内郭へ回っていくことにした。手始めは「園比屋武御嶽（そのひやんうたぎ）」の御朱印。（憎さある人ん憎さどうんするな肝ぬ持ちなしや広く開きり）と書かれている。これは寛容の心を

説いた『六論衍義（りくゆえんぎ）』の二節と思われる。  
2枚目は「弁財天堂（べざいてんどう）」。円鑑池（えんかんち）に架かる天女橋を渡りながら教訓歌に目を通す。（天ぬ群り星や読みば読まじりが親ぬゆしごとや読みやならぬ）…これは親の恩を説いた『ていんざぐぬ花』の歌詞だ。  
3枚目は「円覚寺」。弁財天堂の目の前なのですぐに着いた。（誹らわん構な誉らわん構な我肝思み詰みり朝ん夕さん）…これも自己研鑽を説いた『六論衍義』の二節。  
4枚目は「龍樋」。（誠ふいとうちぬ浮世さみぬよでい言葉ぬ合わせ

うちゆが）…何だろうと考えていたら、美音さんが「あつ、仲風節（なかふうぶし）ですわ」と気づいた。城内を歩きながら、天に届きそうな澄んだ高音で口ずさむ。  
へまくりーうとらうーようー…  
うつとりと聴き惚れながら5枚目の首里杜（すいむい）にあたる首里森御嶽へ。（戦せん終ていみるく世んやがてい嘆くなよ臣下命どう宝）…反戦平和の心を歌った有名な琉歌だが、作者については琉球最後の王・尚泰であるとか、沖縄芝居の中で詠まれたなどの諸説がある。



1: 金城町石畳道の入り口が出現！  
2: ギアをローまで落としてえっちらおっちら  
3: 金城町村屋の前  
4: 最後の坂のラスボス感…  
5: 登頂！ シタイヒャー!!

### ヒラ（坂）ヒラ（坂）ヒラ（坂）

必死に上った標高を一気に失うようにシチナンダビラを滑降したと思つたら、再び胸突き坂が現れる（本当に電動アシスト自転車良かった！）。「金城町の石畳道」の名で知られるカナグシクビラ（金城坂）だ。真珠道で石畳が現存しているのはこだけ。車は頂上まで乗り入れできないため、自転車隊とスタッフカーは金城町村屋でいったん別れる。  
カナグシクビラを上り切つて息つく暇もなく、さらに急峻な石畳道が現れた。もはやラスボス感すら漂っている…車の乗り入れはもちろん無理。というか、自転車だつて上がり切れるのか…逡巡する取材陣をよそ目に伊波さんが勢いよく漕ぎ上がつていき、ほどなく軽やかに滑降してきて叫んだ。「行けそうですよ！」

電動アシスト自転車の威力おそるべし。ここを上がり切つたら守礼門も目の前だ。頂上での再会を期して再びスタッフカーと別れた。  
車道は大きく東西へ迂回して真珠道の頂上に至るため、スタッフカーは自転車組よりはるかに遅れて到着した。そこに立っていたのは「真珠道」と書かれた小さな碑。  
（シタイヒャー…!）



涼しい顔をしている2人の横で、3776メートルの富士山登頂を果たしたような達成感を味わったことはここだけの秘密だ。実際の真珠道はここから守礼門の裏側にあつた石門（イシジョー）まで続いている。さあ、もう一息だ！



クルマより自由に、  
心と体を解き放つ。



沖縄唯一の電動アシスト自転車専門店

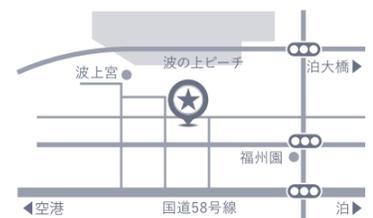


e-bike-okinawa

沖縄県那覇市若狭1-9-1 1F  
TEL-FAX 098-869-5700  
営業時間/12:00~19:00  
定休日/毎週木曜日・第一日曜日  
<https://www.ebike-okinawa.com/>



※店舗内のモデルはすべて試乗可能です



京の内はパワースポット

残る3枚の御朱印に描かれているのは、すべて京の内にある拝所だ。もともと「けおのうち」は霊力のある聖域という意味らしい。グスク時代（12世紀）から三山時代（14世紀）にかけてここに古グスクが創建され、それが首里城の発祥になったと伝えられている。言うなれば、首里城全体が壮大な拝所でもあるのだ。

御朱印に描かれた拝所をひとつずつ訪ねながら、書かれた教訓歌に目を通してゆく。〈宝玉やていん磨かにば鏽す朝夕肝磨ち浮世渡らへな



1: 京の内、1枚目の拝所  
2: 京の内、2枚目の拝所  
3: 京の内、3枚目の拝所

しば何事んなゆる事やしかなさぬ故からどうならぬ定み〉〈誠する人や後や何時迄ん思事ん叶てい千代ぬ栄い〉…これらは全て『ていんさぐぬ花』の歌詞。なんと背筋の伸びる歌なのかと改めて思う。

今回は首里城内外の拝所を描いた御朱印を手に、沖宮から首里城まで真珠道を使って登城する…という盛りだくさんの「さんぽ道」にトライした。全長およそ9キロ、高低差107メートルという無謀な挑戦をアシストしてくれたのは、他ならぬ電動アシスト自転車だ。スタート前に「体力ないし…」と不安な顔を見せてい

た美音さん、本日の感想は？

「坂道がずっと続いたんですけど、思ったよりも乗りやすく、すごく風も気持ちよくて、立ち漕ぎもせずに楽しめました。繁多川では遠い昔、両親に受水走水（ウキンジュハインジュ）に連れて行ってもらったことを

思い出しました。那覇市内にあんな昔懐かしい風景があるなんて…住んでいる街の知らなかった二面が見られて楽しかったです」

まさにへなしは何事んなゆる事やしかなさぬ故からどうならぬ定み〉。皆さんもぜひ挑戦あれ。



写真/屋比久光史 記事/石田 奈月 モデル/美音、伊波寛人  
協力/e-bike-okinawa、柴田 一郎(繁多川自治会)、桑江良勝(首里振興会)、那覇市繁多川公民館、首里城公園管理センター  
参考文献/『繁多川100周年記念誌』『はんたがわさんぼ』(ともに那覇市繁多川自治会)、『王都首里見て歩き』(新星出版)

FM 93.1AM 864  
ラジオ沖縄 AM 864kHz 2021年12月24日(金) 正午  
FM 93.1MHz ~12月25日(土) 13時15分

クリスマス恒例特別番組

# ラジオチャリティ ミュージックソン

RADIO CHARITY  
MUSICHTON

街で黄色い募金箱を見かけたら  
あなたの善意をお寄せください

～目の不自由な方に音の出る信号機を～

リクエスト  
番号 TEL 098-869-8640 FAX 098-869-2202

864kHz 名簿FM 80.1MHz 石垣FM 87.8MHz 与那国FM 79.5MHz 多良間FM 83.6MHz  
国頭FM 86.3MHz 西表FM 81.5MHz 伊良部FM 84.1MHz 南大東FM 79.6MHz 93.1MHz